

さぬきうどんラウンド報告

今年度、初めて四国・香川県で開催されました。香川県内の幼小中高の先生方や大学院生をはじめ、広島県の先生方、遠く岩手大学の先生を交えて開催することができました。開催にあたり、香川大学附属高松小・中学校の先生方の御協力に対しまして心より感謝いたします。

1 話題提供

○香川県の児童生徒の体力について

香川県教育委員会主任指導主事 宮崎彰先生から話題提供がありました。

県内児童生徒の体力について、現状と課題について報告され、体力の向上に向けた総合的な取組についての紹介がありました。

特に、体力向上プランを各校作成し、実践・評価のサイクルを継続することにより、体力向上に向けた取組の推進をめざしている報告がありました。



○幼児期の体力について

「幼児期は様々な遊びを中心に楽しく体を動かすことが大切である」をキャッチフレーズに、多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること、楽しく体を動かす時間を確保すること、発達の特性に合った遊びを提供することの紹介がありました。

○体育授業における思考力を高める学習過程の在り方

台形型ゴールハンドボールゲームの実践から、全ての子どもたちが運動やゲームを楽しむことができ、簡単な動きやボール操作で安心して学習できる教材を工夫することや教師主導ではなく子ども主体で課題解決できるような情報提供の仕方やタイミングについて紹介がありました。



○「水泳の授業づくり」

水泳の授業を作っていくにあたって、子どもの言葉を大切にいくことや記録と技能

の伸びを見えるようにすること。

さらに、学び合う必要感を持たせたグループ活動の工夫について紹介がありました。

○「運動の魅力を実感し、生涯にわたって運動に親しむ生徒を育成する保健体育学習」

生徒の思考や技能の実態に応じて課題を変更し、単元構成を柔軟に再構成する工夫やデータ分析を活用し、教師の関わりが生徒の意欲にどのように関連するのか紹介がありました。

2 グループ協議

話題提供を受けて、「体力向上」及び「体育学習における指導」について協議が行われました。(話し合い内容の抜粋)

- 幼児期での運動経験が多い児童は、小学校でも意欲が高い(運動面・学習面)。苦手な子どもは、苦手なりにいろんなことができるようになっていくので、運動経験は大切だと感じた。
- 子どもの気づきから授業が展開されていくのはよい。
- 下位教材の大切さを知った。
- 子どもがデータをみて考えることが本当の思考力なのか？
- 水泳の学習における「分かる」の大切さについて
- 一人一人のめあてに合わせて活動しているため、グループの中の差や子どもん状況を、先生が把握しきれていないということがあるのではないか。



3 まとめ

佐藤豊先生からは、以下の内容についてお話がありました。

- 体力向上について何のために体力向上させるのか
- 体力の4つの要素
- 体育における思考判断
- どのような力を身に付けるのかという視点で体育学習を考えることが大切



4 おわりに

このようなネットワークを大切にして、日々の授業づくり・教材開発につながる情報交換を続けていければと願っております。

お忙しいところお集まりいただきありがとうございました。